

地図帳を手にした子どもたちから、「海はみんな青色なのに、〇〇洋、〇〇海、そして、〇〇湾、〇〇灘、〇〇海峡、〇〇瀬戸、〇〇水道などと呼び名が違うわけは？」と、尋ねられるのですが…。

回答者 東京学芸大学名誉教授 次山信男

### 人々の活動に関連づけて 海を追ってみてはどうでしょう！

『海は広いな大きいな 月がのぼるし日が沈む…海にお船を浮かばして 行ってみたいなよその国…』(林柳波作詞)

という童謡があります。ここでの海は、月や太陽と肩を並べる地球規模での太平洋、大西洋、インド洋、そして、北極海、地中海、日本海などの、広いひろい海でしょうか。

「世界一周の外国航路の客船が神戸港に着いた新聞記事を見たけど、すごく大きな船だったよ！」

ところで、日本は本州、北海道、九州、四国などからなる島国です。それぞれの島の海岸線をたどるといろいろな海が見られます。

陸地に袋状に入り込んだ〇〇湾、〇〇浦、あるいは入江などと呼ばれる穏やかな海があります。そして、そこには必ずといってよいほど魚介類の漁場や養殖場が見られます。

「だから、そこには昔から漁港もあった、水産業の基地になっているんだ！」

また、四つの大きな島を隔てているのは、大きな海と海を結ぶ狭い海です。この狭い海、つまり、〇〇海峡は、大きな海のエネルギーで潮の流れが速く、昔から海上交通の難所になってきたところです。

「そうか、今は海底トンネルや大鉄橋を通して、海上交通の問題を解決しているんだ！」

海の難所は、〇〇海峡だけではあ

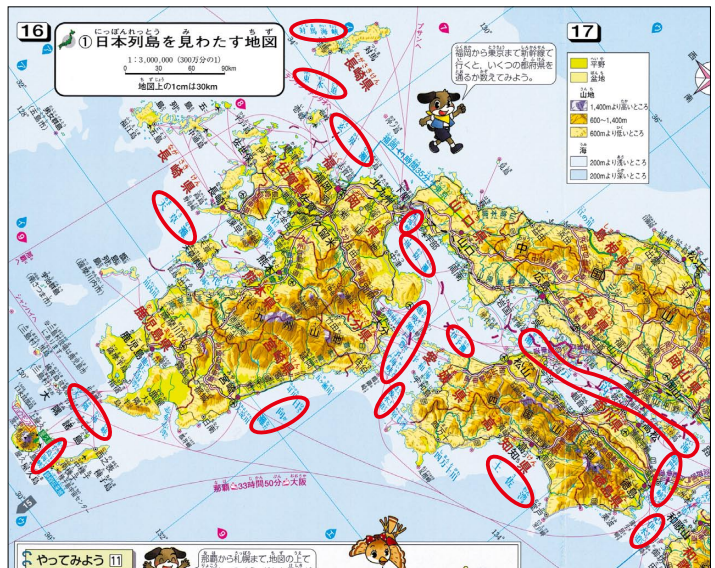
りません。四つの大きな島の沿海にある〇〇灘、〇〇瀬戸、〇〇水道などと呼ばれる海も潮流や風の力を強く受けて波も荒く、昔から海上交通の難所になっているのです。

「だから、“灘”という字は“さんずい”に“難”と書くんだね！」

しかし、〇〇灘も〇〇瀬戸も〇〇水道も荒れてばかりいるわけではありません。沿海の潮流や風向・風力は昔から近海の海上交通をささえてもいるのです。

「それでは、本州と九州、本州と北海道を結んで、自動車ごと荷物を運ぶ海上フェリーも、潮流や風力を利用しているのかな？」

地図帳を開いて、見てきたようにいろいろな海をめぐってゆっくり話し合ってみましょう。青一色の海ですが、いろいろな姿で私たちの生活に近づいてくるように思うのです。いかがでしょうか。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.16~17